

福井県の中世墓標の出現と展開について

－福井県における中世墓の展開と石造物－

赤澤 徳明（福井県教育庁埋蔵文化財調査センター）

（１）中世墓の立地について 古代・中世木製祭祀遺物の所在確認に代えて

福井県でこれまで発掘された墓地関連遺跡（寺院や中世墓群など）は丘陵や山腹で木製品が残るような低地部での調査例はないためか、明らかに墓標などの木製遺物は確認されていない。

（２）火葬の始まり

古代末から中世前期にかけてと考えられる火葬地の調査は下河端遺跡（鯖江市）、徳神遺跡（越前市）などがある。しかしこの時期の明らかに火葬墓とされるものはない。これについては集落縁辺部で単独で出土する土師器甕などにその可能性があるのではないかと考えている。その事例として下糸生脇遺跡 HS X01、乗兼・坪江遺跡 SP218の土師器長胴甕の合口、山腰遺跡の土師器長胴甕などがある。

しかし12世紀後半から13世紀にかけて造墓された家久遺跡（越前市）では、石槨内の土葬（木棺の痕跡は未確認）されていることから、鎌倉時代前半でも火葬がどこまで普及していたか疑問である。中世墓と石塔の展開に先行して、火葬遺構の出現が先行する可能性が高い。

（３）中世墓の成立と展開 ―福井県内の調査事例から―

発掘調査された中世墓として、次の5つの中世墓群がある。

漆谷中世墓群（福井市）、芳春寺中世墓群（美浜町）、山田中世墓群（おおい町）は方形区画や配石に石造物が伴うのを基本とする。刀などの副葬事例があることから、造営集団は武士階級と想定される。三峰村中世墓群（鯖江市）は方形区画や配石を行わないで石塔のみで構成される。古代から続く三峯寺に隣接することからも、造営集団は宗教関係者と考えられる。坂ノ下中世墓群（敦賀市）は石の方形区画から区画のない石塔のみの墓へ変化することが、調査内容の検討の結果から推測される。事例に限られるので、あくまで仮説であるが、石の方形区画や配石の中世墓は武士階級、石塔のみの中世墓は宗教関係者のものと考えられる。時期的に下ると、武士階級も石塔のみの墓へ変化し、石塔を造立することが下の階層にも広く広まると想定される。

（４）石塔について

①越前最古の石塔と考えられるのは、笏谷石ではなく産地不明の福井市深谷町前山出土凝灰岩質砂岩製宝塔塔身である。笏谷石製では鯖江市中野勢至堂の五輪塔が最古と思われ、加賀市山代薬王院の宝篋印塔（第2図1）もこの直後の時期であろう。また総高が1mにも満たないが、ほぼ同時期と考えられるものが福井県内（第2図3～5）ではもちろん、愛知県でも出土している（第2図2）。若狭では三方町（現在の若狭町）臥竜院墓地にある2基（第2図12・13）が最も古い五輪塔と考えられる。

②鎌倉から南北朝にかけては越前も若狭も、多層塔が多く残り、その後に石造物の主体となる石材でつくられている。特に福井平野周辺には笏谷石の多層塔が多く残されている。若狭では紀年銘はないものの、花崗岩製の美浜町高奈弥神社多層塔が最も古いと考えられる。

③鎌倉から南北朝にかけて、一部の限られた地域では大型の板碑が集中する地域がある。越前では坂井平野西部（坂井市春江町周辺）＝笏谷石の板碑（井ノ向の白山神社の板碑が代表）、若狭西部の高浜町＝日引石の板碑（西林寺の板碑が代表）のように狭い範囲に特定される。

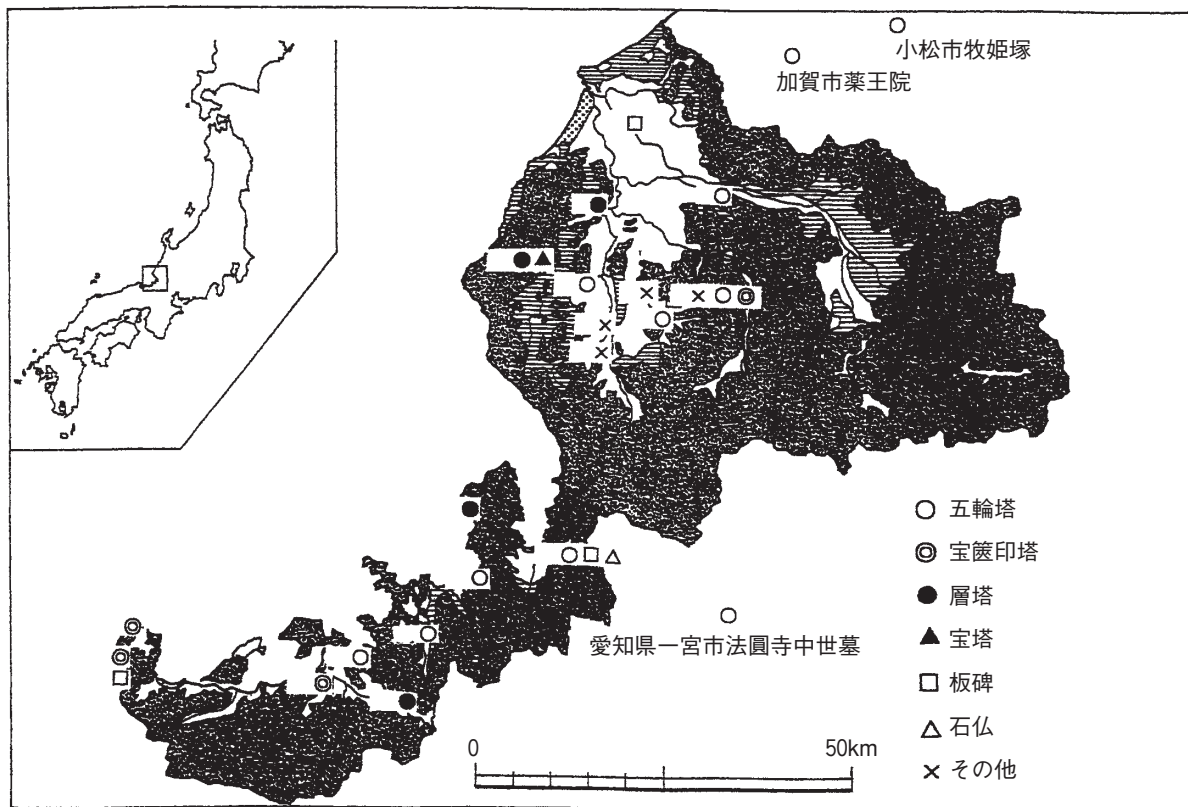
④福井県内の中世石造物の種類と分布

主に福井県を中心とした中世石造物一覧表

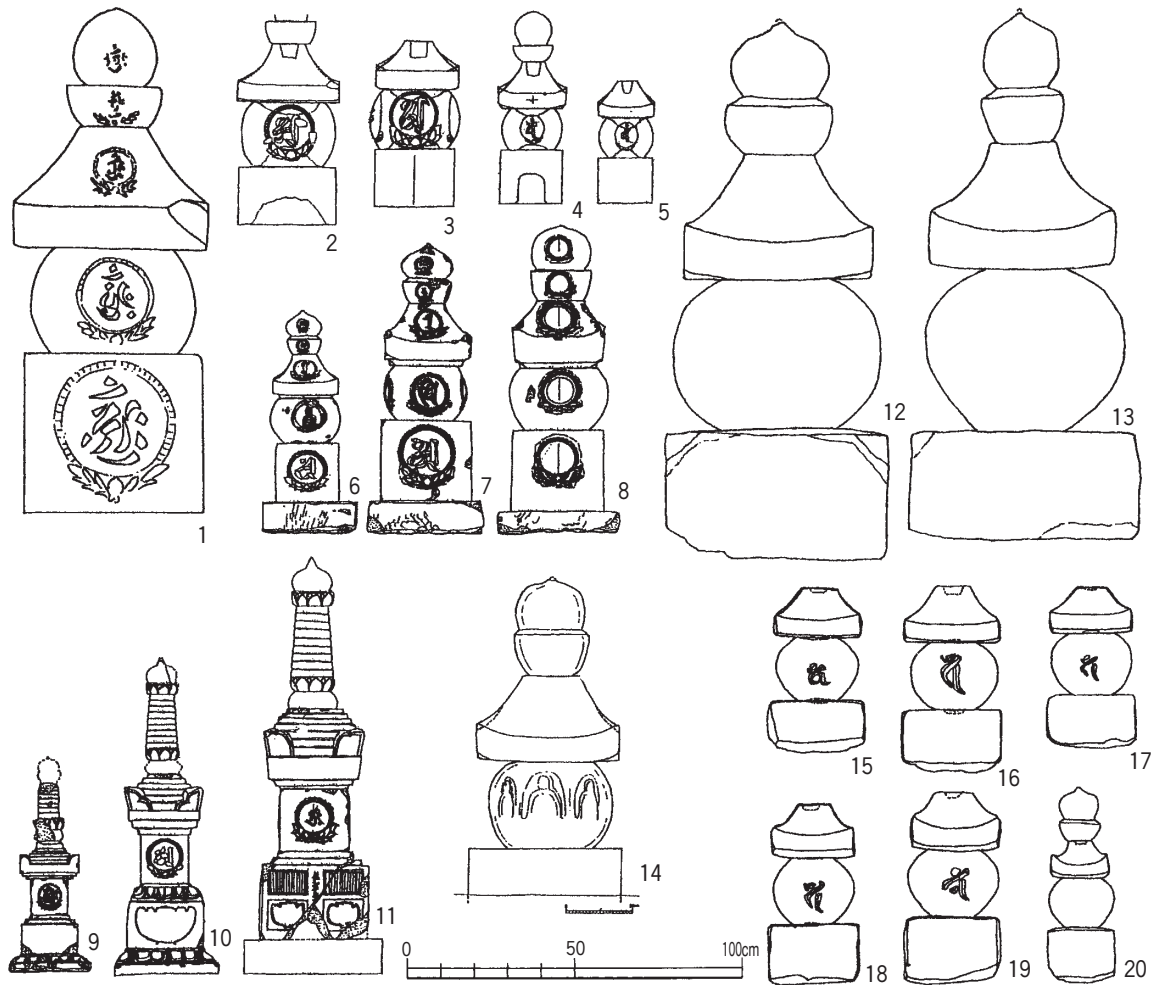
名称	所在地	番号	種別	石材	和暦	西暦	時期	時期比定根拠
家久中世墓	越前市	7 ×	礫塚墓	—	—	—	鎌倉前期	白磁・カワラケ(12世紀末)、和鏡(13世紀前)、烏帽子出土
中野勢至堂五輪塔	鯖江市	6 ○	五輪塔	笏谷石	—	—	～	
井向白山神社板碑	坂井市	1 □	板碑	笏谷石	文永 11	1274	～	
高雄神社七重塔	福井市	3 ●	層塔	笏谷石	正応 3	1290	～	
大谷寺石造九重塔	越前町	10 ●	層塔	笏谷石	元亨 3	1323	～	
薬王院五輪塔	加賀市	20 ○	五輪塔	凝灰岩	—	—	～	伝明覚小人(1106年没)の墓
法圓寺4号墓五輪塔	愛知県	22 ○	五輪塔	凝灰岩	—	—	～	13c 前半の美濃四耳壺伴う
朝日山46号墳	越前町	9 ○	五輪塔	凝灰岩	—	—	～	①
臥龍院境内五輪塔	若狭町	14 ○	五輪塔	花崗岩	—	—	～	
長英寺五輪塔	小浜市	16 ○	五輪塔	花崗岩	—	—	～	太良ノ庄内
高奈弥神社 層塔	美浜町	12 ●	層塔	花崗岩	—	—	～	相輪は後補
牧姫塚	小松市	21 ○	五輪塔	花崗岩	—	—	～	14世紀前半?
大谷寺円山宝塔	越前町	10 ▲	宝塔	笏谷石	観応 3	1352	南北朝前期	
西方寺跡(市)宝篋印塔	小浜市	17 ◎	宝篋印塔	花崗岩	延文 3	1358	～	
正楽寺宝篋印塔	高浜町	18 ◎	宝篋印塔	日引石	—	—	南北朝前期	
曹福寺九重塔	若狭町	15 ●	層塔	日引石	応安 4	1371	南北朝後期	応安の国一揆関連か? ②
上瀬宝篋印塔	高浜町	18 ◎	宝篋印塔	日引石	応安 6	1373	～	
西林寺宝篋印塔	高浜町	19 ◎	宝篋印塔	日引石	応安 6	1373	～	
西林寺板碑	高浜町	19 □	板碑	日引石	応安 7	1374	～	
西林寺板碑笠塔婆	高浜町	19 □	笠塔婆	日引石	永和 3	1377	～	
伝熊谷氏五輪塔	若狭町	14 ○	五輪塔	花崗岩	—	—	～	
坂ノ下中世墓群	敦賀市	11 ○	五輪塔	花崗岩	—	—		
芳春寺山中世墓	美浜町	13 ○	五輪塔	花崗岩	—	—	15～16C 初	
三峯村墓地跡	鯖江市	4 ×	甕棺	—	—	—	13C	
三峯村墓地跡	鯖江市	4 ○	五輪塔	笏谷石	—	—	14～16C 末	
三峯村墓地跡	鯖江市	4 ◎	宝篋印塔	笏谷石	—	—	14～16C 末	
下河端遺跡	鯖江市	5 ×	火葬遺構	—	—	—		
徳神遺跡	越前市	8 ×	火葬遺構	—	—	—		

* ①同じようなタイプの笏谷石製五輪塔が13世紀に成立すると考えられる諏訪問興行寺から出土している。

* ②応安の国一揆とは貞治5年(1366)に若狭の守護となった一色(範光)氏の国人に対する抑圧=半済(新規の税の導入)に対する国人との争い・応安4年(1371)に守護側の勝利で終り、一色氏の若狭支配が安定する。



第1図 福井県を中心とした石塔位置図 (S=1/1000,000)



1. 加賀市薬王院 2. 愛知県一宮市一宮市法圓寺中世墓遺跡 3～5. 越前町朝日山古墳群 6～11. 鯖江市三峰村跡墓地
12・13. 若狭町臥竜院墓地 14. 小松市牧姫塚 15～20. 敦賀市坂ノ下中世墓群

第2図 福井県を中心とした凝灰岩（笏谷石）製と花崗岩製・日引石製の主要な石塔（S=1/20）

福井県内の板碑を含む石塔の分布は次のような状況である。

・敦賀を除く越前の平野部には笏谷石の五輪塔に少ないが宝篋印塔が展開し、戦国期になると一乗谷周辺の地域に板碑と一石五輪塔が多数存在する。三峰村墓地跡では越前でも類例が少ない宝篋印塔（第2図9～11）が出土し、現存塔が少ない五輪塔もいくつか復元されている（第2図6～8）が、このように遺存状態が良好な石塔群は越前では珍しい。

・奥越盆地（大野市と勝山市）では白山平泉寺を除いて中世の石塔はほとんど見る事ができない。

・敦賀から若狭東部には花崗岩の五輪塔（第2図15～19）・宝篋印塔・多層塔・石仏と花崗閃緑岩の板碑（坂ノ下中世墓群・芳春寺中世墓群）が中世全般にわたり分布する。16世紀以降に笏谷石の板碑が散見されるのは、朝倉氏に関連する集団のものと考えられる（坂ノ下中世墓群）。

・若狭では南北朝期あたりまで花崗岩の五輪塔・宝篋印塔が分布するが、南北朝のころを境に小浜から西側を中心に日引石の宝篋印塔が広範囲に分布するようになる。中世後半（15世紀ぐらいか？）からの石塔は、若狭西部ではほとんどが日引石で占められ、若狭東部の美浜町や敦賀まで広がるようになる（第2図20）。

・日引石製石塔が西日本各地の広範囲に広がるのは倭寇の活動時期とダブるものとされ（大石一久氏の研究による）、若狭でも東では前代より引き続き花崗岩の石塔の分布が多く、越前では日引石製・花崗岩製の石塔は非常にまれである。